

本主義社会を根底から変革します。3・29三里塚集会で、労働者階級の団結した力を全社会に向かって見せつけようではありませんか！改めて、全国学友の集会への結集を訴えます。

☆神奈川大学・吉田耕

3月11日、声をあげれば弾圧されるという現実に対して怒りの声をあげる、3・11反原発福島行動が労働者・学生・農民の連帯によって、打ち抜かれました。そして3・11終了後、今度は三里塚に生き、闘う皆さんと共に3.29の集会を成功させるため、私はそのまま現地に入り、援農やビラまきなどを行いました。

仲間の学生とともに成田市の商店街や住宅街でビラのポスティングをしました。お店の人にビラとパンフレットを渡し、直接3月29日の集会への参加を呼びかけました。やはり三里塚闘争は有名で、話しにもなることもたびたびありました。ある商店の人は、安倍政権の話になった時に「戦争は絶対にダメだ！」と怒りを表していました。話している最中は、「軍事空港反対」をかかげる三里塚闘争は、数十年経った今でも、戦争反対・安倍ふざけるな！という怒りを持った人たちに通用するし、むしろ求められていると考えていました。絶対そうなんだよ！

反対同盟の事務局長を務める北原さんが市議会議員だった時から知っているという女性にも出会いました。「とっても良い人だった、今も元気なんですか？」と、懐かしそうでした。今年で93歳の北原さん、とても元気です。伝えると驚いていました。

援農ではサツマイモを穴から取り出して選別したり、トウモロコシの種を植え、ビニールを被せるなどの作業をしました。学校や保育園の芋掘り大会では想像できないぐらいサツマイモの数が多く、選別も運搬も時間がかかって大変でした。種植えとビニールシートひきも意外に時間がかかり、一日中動き回ることになりました。しかし、基本的に援農は楽しく、トウモロコシ畑を整える作業を貫徹できたこともあり、終わった後は学生時代の部活終わりのような達成感がありました。みなさんにも援農に行って、この感覚を味わって欲しいです。ご飯も美味しかった！

安倍政権が戦争できる国づくり進め、声をあげれば弾圧される、そんな今の情勢だからこそ、この三里塚の地で、半世紀近くも国家権力と真っ向から対決し続けている農民・労働者、そして学生の姿をぜひ見てほしい、ともに闘ってほしいと思います。いろいろありますが、私もうがんばります。3月29日、栗山公園で会いましょう。



初めて現地を訪れた仲間とともに現地調査

連絡先

全学連三里塚現地行動隊 今井治郎
〒287-0105
千葉県香取市沢2141-2
Tel: 090-6255-4319
Mail: jiro-imai@ezweb.ne.jp

行動隊

三里塚通信 Vol. 008

2015年3月18日発行

3・29三里塚全国集会の爆発で戦争止めよう！

3月4日、東京高裁小林昭彦裁判長は市東さんの農地裁判を突如打ち切り、結審を強行しました。

これは度重なる農地法違反や証拠の偽造など、徹頭徹尾違法・不法な土地取り上げが裁判で暴露される中で、これ以上裁判を続けたら負けてしまうというNAA—安倍政権の悲鳴です。48年間「国策」を止め続けてきた三里塚闘争が続く限りは戦争政策もTPPも農業改革も一歩も前に進めることができないのです。3・29全国集会の大結集でただちに反撃しよう！

全国学生は市東さんの農地を守り抜き、反戦の砦、労農連帯・国際連帯の拠点である三里塚闘争を勝利させよう！三里塚のように闘い、新歓の爆発から6・15国会闘争に攻め上ろう！



全国から駆けつけた学生と星の木の前にて

<3・29三里塚全国総決起集会>



市東さんの農地を守ろう！戦争止めよう！

日時：3月29日（日）
12時～ 集会
15時デモ出発

会場：成田市栗山公園（JR成田駅から徒歩5分、地図参照）

主催：三里塚芝山連合空港反対同盟

全学連三里塚現地行動隊

☆全学連書記次長・森 幸一郎

3月29日の三里塚集会に向けて、4日間という短い期間ではありましたが、援農と同盟一斉行動の周辺ビラまきに決起しました。

援農は市東さん宅の農地で行いました。久しぶりの援農でしたが私の顔を覚えてくださっていたので嬉しかったです。農作業は、サツマイモや人参の選別、からし菜の収穫などを行いました。今年は人参が不作らしく、あまり実っていなかったと聞きました。天候やその時々々の事象によって左右される農業の大変さを少しでも理解できました。

慣れない体勢での作業が多く、作業が終わったところには体はくたくた、農作業はいつやっても大変です。人の命を支える作物を扱うのですから、神経を使います。しかし、こういった農民によるひとつひとつの営みが労働者・学生の食を支えてきたのだと考えると本当に頭が下がる思いです。

三里塚は、日本のどこよりも「国家との非和解性」を感じる場所です。24時間365日、常時国家権力の監視下に置かれ、破綻につぐ破綻の上に建設された成田空港は、いつ農地に飛行機が突っ込んできてもおかしくないくらい危険な状態です。私が農作業をしている最中も、金魚の糞のように公安警察の車両が付きまといまわっていました。あるいは、作業中の会話が飛行機の轟音によって途切れてしまうことも多々ありました。本当に許しがたい現実です。廃港あるのみだと心から思います。

闘う農民の団結をズタズタに破壊して建設されて成田空港は今、化け物のように市東さんの家を囲い込んで、絶望的な農地強奪に突き進んでいます。これらの攻撃に対して、「農地死守・一切の話し合い拒否・実力闘争」という原則で反撃し続けてきた三里塚48年間の闘いは、私たち学生にとってとても展望のあるものです。たとえ「農地」が奪われたとしても、「団結」や「誇り」だけは絶対に守り抜くという信念が三里塚闘争にはある

と思っています。資本主義社会を転覆するまで止むことのない怒りが、三里塚にはあります。だからこそ、いつの時代でも心から社会変革を求める青年や学生を獲得してやみません。私もその学生のうちの一人です。

3月29日の三里塚集会は、そのような若者たちが労働者や農民と固く団結して闘い抜かれる集会です。この集会を出発点にして、新歓闘争に打って出て、6・15戦争安保国会粉碎の大爆発を勝ち取りましょう！



デモの先頭に立つ反対同盟（3月4日農地裁判闘争にて）



駆けつけた現地行動隊も出荷作業に参加！

☆関西学生・M

いま、歴史の、また、時代の大きな分水嶺に來ています。その歴史や時代は、革命か戦争か、革命左派か体制内派か、階級的労働運動か帝国主義労働運動かを激しく、一般的抽象的にではなく、個々の学生の主体に問うています。革命ということ腹の底から、したがって、自分の内側から発せられるものとして、語れない全ての日和見主義者には一切時代を語れない、という程までに、革命情勢が成熟しています。イラクの石油労働者の闘いやトルコの労働者の闘い、アメリカの港湾・教育労働者の闘い、民主労総の闘いを革命情勢



3・11反原発福島行動に反対同盟も参加

の成熟そのものとして、その情勢に主体的に噛んでいく、その中で、国際連帯をし、戦争をぶっ止める、胸を踊る時代が私の、そしてまた全国学友の眼前に広がっています

日本帝国主義安倍政権は、このような、戦争をぶっ止める力を持った勢力、つまりは革命派の存在に恐れおののいています。常会での「日教組」批判からもその一端が伺えます。問われていることの一切は、革命に向かう労働者・学生・農民の団結です。動労千葉や動労水戸という一つの組合の団結のために、全国から結集し連帯する団結であり、ひとりの農民との団結をかけて、全国から援農や街頭宣伝に決起する団結の拡大が求められています。

いま、三里塚闘争で焦点化している、市東さんの農地強奪裁判が東京高裁で結審しました。小林裁判長は、弁護士の発言が終わると突如として、結審を強行しました。まだ、証人尋問などNAAによる農地強奪、一審多見谷判決の不当性を暴露し弾劾する手続きが残っていたのに、です。なぜ、このようなことが起きるか。それは、我々革命派が敵を圧倒しているからに他なりません。ブルジョア法的正当性すら守れない程の違憲・違法・不当・不正義性の自己暴露、敵を袋小路に叩き込む闘いをやってきたからです。

現に、農作業をしている農民の農地を奪う不当性は、日々農作業をしている事実によって裏付けられます。それは、直接、援農の意義に繋がります。私が、また学生が援農することは、それ自体が、農地強奪裁判の不正義性を裏付けるものであり、他方で我々の団結を示すものです。また、敵の不正義性、つまり、この社会はどこまで行っても階級社会であり、資本家階級による被支配階級のためなら理由などなく、国家暴力で叩き潰すという真実。これを宣伝扇動し、労働者階級にそれが知れたら直ちに怒りの大デモから革命に行き着く恐怖から、小林裁判長は結審を強行したのです。私は、成田市での同盟ニュースビラまきで宣伝扇動を担いました。そうした闘いの中で、小林裁判長は、労働者階級の団結した力の何たるか、を社会に見せたくなかったのです。そのために結審強行したものの、逆に袋小路に追い込まれました。

労働者階級の団結が、世界で勃発している戦争を止め、働けば働くほど貧しくなる資